

人権通信

2023年度 第1号
城ノ内中等教育学校 人権委員会・レベラーズ部

こんにちは、人権委員会・レベラーズ部です。

楽しかった城ノ内祭も終わり、少しずつ秋らしくなってきました。

人権展では、フードドライブにご協力いただきありがとうございました。お預かりした食品については、この後フードバンクとくしまに寄付する予定となっています。そして、子ども食堂や福祉施設、フードパントリー(食品等の無料配布)などで活用していただくことになります。

さて、今回は6年生の人権委員の皆さんに原稿を書いていただきました。

エメルン・パンクハーストという女性を知っているだろうか。彼女は、女性が政治に参加する権利を求める団体「女性社会政治同盟(WSPU)」を結成し、女性参政権運動を行った人物である。彼女の命がけの運動の結果、イギリスでは1928年に21歳以上の全ての女性に参政権が与えられたのである。

日本も過去には男尊女卑の考え方が強かった時代があり、現代でも性差別発言をする人がいたり、家事や育児は女性の仕事だとする考えも根強い。私たちは性にまつわる先入観をなくし、ジェンダー平等への理解を深め、自分にできることを見つけて行動し、平等社会を実現すべきだと考える。

私は、ちょうど人権HRで学習したばかりの就職差別について取り上げようと思う。就職差別とは、雇用者が応募者の能力や適性と関係のない事柄や、本人の責任ではない事項で採用するかどうかを決めることだ。

採用選考時に配慮すべき事項としては、「就職差別につながる」とされる14項目があり、これに該当する質問をされたときには、「はい、今の質問は差別選考につながる必要がありますので答えられません」「はい、私個人の能力や適性に直接関係がないのでお答えできません」などと返すことで、公正な選考につなげる必要があると学んだ。

しかし、実際にシミュレーションしてみると、答えるべきかどうか迷う質問が

いくつもあった。会社が無気なくしてきた質問の中にも、差別につながる内容が含まれることもあり、私たちはそれが差別につながる質問かどうか見分けられるためにも、就職差別に関してもっと深く知るべきだと感じた。

みなさんも是非一度、就職差別について興味を持ち、調べてみてほしい。

20歳で利き腕と両足を失った男性の話。Youtubeのおすすめで偶然上がってきた、あまりにショッキングな動画である。だが、サムネイルを見ると、山田千紘さん本人は明るくて爽やかな笑顔だ。戸惑いながら再生してみた。動画からは、現在21歳の山田さんが日々充実した生活を送っていることが伝わってくる。そこに至るまでの苦労は想像を超えるものだっただろうが、前に進もう！もっと上へ！という強い気持ちが、穏やかながらもギラギラした瞳からあふれていた。

「手足がなくても時間は平等。言い訳できないなら時間の使い方を考えなきゃ。」という山田さん。受験生にそんな時間なんてない！とか言い訳しながら、やるべきことから目をそらしている自分を振り返り、ひとつひとつのことにもっと丁寧に向き合っていこうと思った。

先日、SNSで次のような投稿を見かけた。それは、「インターネットで悪口を言われていた人の投稿が途絶えたので、調べてみるとその人は自殺をしており、そのことを知って憂鬱(ゆううつ)な気持ちになった。」という内容であった。

インターネットでの人権侵害がなくなる理由の一つに、SNSなどインターネット上の世界を、自分が今生活している世界と切り離されたものとして見ているということがあると思う。どこか仮想的だったSNSが、画面の向こう側の人の自殺という出来事により、一気に現実のものとしての重みを感じる結果となったため、この投稿者は憂鬱な気持ちになったのではないだろうか。

顔が見えなくても、画面の先にいるのは生身の人間であるというあたりまえのことを念頭に置いた上で、インターネットを利用しなければならないと思う。

6年生の人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？

この機会に、ご家族で人権問題について考えたり、話したりしてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

